

## NiMoGa 文芸賞

### 『生クリームはモルタルで』

RIRI

本物のお菓子の家は雨で溶ける。そして、崩れる。

強度的な問題もさることながら、腐敗速度も凄まじい。現実的にはまさに建築不可能な物件と言えることは、台風や地震が身近にある国に生まれたが故に割と若い時期には気付くものである。

とはいえ、現実に住むことが出来ないと言って、夢が即座に潰える訳でもなく、いつか現実になる日がやって来るかもしれないと未来に夢を託す。

屋根にはイチゴをふんだんにのせて、壁は生クリームでデコレーション。材料費もとい食材費なんて度外視して、可愛さだけを追求した大好きな素材ばかり組み合わせた家の夢を抱いているからこそ「見えてくる」お菓子の家が確かにあった。

そして、その根本にある概念は今も昔も変わらない。だからこそ、大人になった今でも「現代版お菓子の家」を発見するとテンションが上がってしまう。更にマニアックなことを述べるとすれば、施工途中の段階が格別だと私は常々思っている。

さて、現代日本に建つ「現代版お菓子の家」。それはモルタルの壁を持つ家に他ならない。モルタルで仕上げている壁面はさながら生クリーム。イチゴのような赤い三角屋根ならテンションは更に膨れ上がるのは言わずもがな。そんな美しいもとい美味しそうな壁面を塗る左官職人は巨大なショートケーキを仕上げるパティシエのようだ。

それは食い意地の張った私だからこそ生まれた感想なのか。それとも依頼主の要望に沿った質感を的確に再現する匠の技が重なる故にシンクロした結果なのか。そんなことを思いつつ、帰宅途中に見えるモルタルの家の進捗状況を見ている私の脳内は早くもお祭り騒ぎ。

ああ、本当にこの家の壁は実に美味しそう。

少しだけ入った筋が立体感を強調して、たっぷりふんだんに生クリームがデコレーションされているみたい……。まるでシロップでコーティングしたイチゴのようにキラキラと輝く艶が目を惹く赤い三角屋根とのコントラストの美しさが日に日に明るみになっていく姿を目の当たりにして、食欲がそそられないはずがない！！

とどまることを知らない食欲ありきのモルタルに向ける下心いっぱいのマナギシなんて、今に始まったことではない。とはいえ、幼い頃ならいざ知らず。妙齢になっても、依然として「美味しそう」という判断基準で外壁を愛でるのは、何とも子どもくさいものである。

しかし、私にとってモルタルの外壁には「美味しそう」という表現を切り離すことなんて出来ないだろう。何故ならば、「美味しそう」に感じる魅惑こそ、モルタル最大の魅力と信じているのだから。そして、作りたての「美味しそう」な瞬間ほど、惹き寄せられるものもまたないだろう。現に……。

「ママー！ おじちゃん、生クリーム壁に塗ってるよー？ お菓子の家、作ってるよー！」

小さな女の子の弾けるような声が後ろから聞こえてくる。きっと女の子はキラキラしたマナギシをして、母親に嬉々として喋っているだろう。女の子の発言に振り向くことこそしなかったが、在りし日の自分と重ね合わせて、思わず小さな笑みを浮かべてしまう。振り向くことなく家路に向かう足取りはいつになく軽かった。刹那の瞬間とはいえ、同じ視線を向ける同士とすれ違った喜びは計り知れないものがある。

古今東西、モルタルの壁にはいつだって夢が詰まっている。そして、夢を見ているからこそ「見えてくる」お菓子の家が確かに存在している事実を目撃する度、幸せは増え続けていくことだろう。

モルタルで仕上げた家は、本当に凄い。

温もりとか、強度とか、快適性とか。長所は数え切れないくらいある。その中でも、現実的に建築不可能な物件「お菓子の家」の夢さえ見ることが出来ることは他に類を見ない秀でた長所の一つと言えるはずだ。

だからこそ、モルタルの壁を見たら温かみを感じずにはいられない。少なくとも、私の場合は……ね。

さて、今日は久々にショートケーキを買おうかな。モルタルに生クリームを重ねた女の子とすれ違った幸せを記念して。